

教科	科 目	単位数	学年・クラス
国語	現代の国語	2	1年1組・2組

1 使用教材

使用教科書	高等学校 現代の国語
出版社	第一学習社
副教材等	-
出版社	-

2 学習の目標

<p>1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ事故を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 評価の観点・方法

評価の観点	内 容
① 知識・技能	常用漢字や表現技法について正しく理解できている。
② 思考・判断・表現	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	国語や言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重するとともに、進んで表現したり理解したりして、国語力を高めようとしている。

評価方法	観点別重要度			主な評価項目
	①	②	③	
学習態度	C	B	A	授業態度など
ノート提出	B	A	B	指示した時期に提出
感想の記入	C	B	A	各単元終了後に提出
定期考査	A	B	C	定期テスト、課題テスト

※表中のA・B・Cは評価の重要性を高い順に表している。

4 学習計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい
1 学期	1 『『生きもの』として生きる』 2 「羅生門」 3 「水の東西」 書いて伝える 「地域の魅力を紹介する」	筆者の提案する人間の生き方について。文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 東西の退避関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすい紹介文を書くために活用する方法を理解する。
2 学期	4 『文化』としての科学』 5 「フェアな競争」 論理分析 「日本語は世界をどのように捉える」 書いて伝える 「実用的な手紙文の書き方」 話して伝える 「話し方の工夫」	筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解する。 筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、「社会的共通資本」と「フェアな競争」との関係を押さえる。 文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を学ぶ。 相手に情報を適切に伝える文章の書き方を習得する。 目的や場に応じて適切な話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する方法を学ぶ。
3 学期	6 「城の崎にて」 7 「法律の改正に関わる文章を読み比べる」 話して伝える 「スピーチで自分を伝える」	三つの小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深める。 改正前後法律文を読み比べて必要な情報を読み取り、複数の分掌を関連づけながら理解したことをまとめる。 自分の意見を大勢の聞き手に分かりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。